



筆者にとって、犬という人間と異なる存在を描くことは、人間としての自己を見つめる行為である。卒業制作にあたり、犬そのものを描かずにその存在を表現できないかという考えから着想を得て、何も無い空間に見出す犬の存在という視点で構想を立てた。目の前の空間を見つめ、そこにはいない何か大切な存在に思いを馳せることは、温かく穏やかな時間であるが、その温かさが心に潜む寂寥感を際立たせる。そうした温もりと侘しさが共存した心象をもとに空間を描いた。

洋画

テンペラ・油彩、カンバス H162cm×W130cm 2点

令和6年度 筑波大学芸術専門学群 卒業研究・作品集より

このコーナーでは、筑波大学芸術系ならびに同大学の芸術専門学群を卒業された方々のご協力のもと、芸術作品を掲載しています。